

人権啓発センター だより

平成28年11月

No.35



雑感

ある人権講演会で講師の方が、幼児期に視覚障がい故にいじめに遭い、仕返しをしようとした時、お母さんが「差別される人より、差別する人がかわいそうなんだ。」と言って止めたというお話をされていた。これを聞いた時、アメリカの公民権運動の指導者であった故マーティン・ルーサーキング牧師の言葉を思い出した。キング牧師は、「公民権運動の目的は差別する人々を救うため」という意味の発言をしている。有色人種を搾取し差別している人たちの方が、差別の故に苦しんで

いる人々よりも、人間の在り方からみた場合には、良心が麻痺し人間性を失った惨めな存在になってしまっている、そうした人々に良心を取り戻すのが公民権運動の一つの目的ということを表した言葉ではないかと思う。

このお二人の言葉から、人権問題とは、人権を侵害される側の権利を守るということは勿論であるが、無意識にあるいは意図的に人権を侵害している人々や社会の在り方を問うことであるということに改めて気づかされた。

(事務局長 中山)

人権あれこれ



～「今日も机にあの子がいない」～

10月6日付け毎日新聞に、スクールソーシャルワーカー（以下SSWと表記）の配置割合が、都道府県で最大30倍の格差があるという報道がなされていた。SSWとは、いじめや不登校、児童虐待など子どもの問題について、児童相談所や福祉機関等と連携したり、教員を支援したりする福祉の専門家のことである。記事では、児童生徒1万人当たりの配置数が全国で一番多いのは高知県の9.4人ということだった。全国比較では何かと底辺に位置することが多い高知県だが、SSWの配置で全国一位というのはいかじりだ。

この記事を見て、戦後まもない頃、高知県が全国に先駆けて学校に配置した福祉教員のことを思い出した。福祉教員は、当時大きな社会問題であった長期欠席、不登校児童生徒の問題に取り組むために、1950（昭和25）年、高知県が全国で初めて制度的に設置した。福祉教員は、日夜を問わず家庭訪問を繰り返し、長期欠席、不登校の背景には家庭の厳しい貧困が起因していることを痛感

する。そして、学校と福祉機関をつなぎ、子どもたちを学校に返し、進路を保障するための条件整備に奔走して大きな成果をあげた。当時の実践記録「今日も机にあの子がいない」は同和教育の実践として大事にされ、全国にこの取り組みが広がっていった。

1950年代と現在とは、子どもを取り巻く社会環境や生活環境は大きく変わっているが、福祉教員の果たしてきた役割が現在のSSWにも求められている。いじめや不登校、児童虐待などの問題は、今や学校だけの取り組みでは限界があり、関係機関が連携した取り組みを欠かすことができなくなっている。そのコーディネーターとして、SSWはすべての子どもたちの教育を受ける権利の保障のため非常に重要である。SSWの配置など学校を支援する体制をさらに充実させ、現在の子どもの取り巻く問題解決の方向性を高知県から発信していきたいものだ。

(研修講師 藤本)



《人権啓発 DVD》



※じんけんライブラリーには、現在 209 本の DVD を所蔵していますので、ぜひご利用ください。

『 わっかカフェへようこそ

~ココロまじわるヨリドコロ~ 』

あなたには「心のよりどころ」がありますか？

忙しい日常に追われて
誰かと「心を交流する」ことを
おろそかにしていませんか？

町の路地にたたずむこの小さなカフェには
いろいろな人が訪れ、駿と桜が、出迎えます。
ここは、ココロはじまる ヨリドコロ

ようこそ わっかカフェへ

- インターネットによる人権侵害
「三色団子の向こう側」 (上映時間 12分)
- 高齢者の人権
「世代をつなぐ柏餅」 (// 8分)
- 外国人の人権
「コンパイトウの来た道」 (// 12分)

わっかの「わ」にはいろいろな意味がある。
調和の和、つながることも輪、めぐることも環、
そして、はなしをする話



ちょっといい話



神奈川県で中学校の体育教師をしていた腰塚勇人（こしづかはやと）さんは、2002（平成 14）年 3 月、スキーでの大事故で首の骨を折り、一瞬にして首から下が全く動かない全身麻痺の体になりました。しかし、4 ヶ月の入院・懸命のリハビリの後、回復し（今も下半身と右半身に麻痺が残るものの）職場復帰を果たすことができました。

しかしながら、その事故をきっかけにして彼の人生や人生観は大きく変化しました。その後、2010（平成 22）年 3 月、講演活動に専念するために、教職を辞し、全国各地で自分の体験をもとに『命の授業』の講演会をしています。その彼が講演

会などで『命の授業』5 つの誓いを述べています。

- 1、口は、人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう。
- 2、耳は、人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう。
- 3、目は、人のよいところを見るために使おう。
- 4、手足は、人を助けるために使おう。
- 5、心は、人の痛みがわかるために使おう。

※『命の授業』（ダイヤモンド社）、『感謝の授業』（PHP 研究所）、『命の授業』腰塚勇人オフィシャルサイト より
(研修啓発課長 山本)

『見えない人も楽しめる絵本～布絵本の紹介～』

布絵本とは、台紙が布で出来ており、そこにいろいろな布で作った絵を綴じ付けたものです。じんけんライブラリーでは4冊の布絵本を所蔵していますが、ひとつひとつが北海道にある「ふきのとう文庫」のボランティアさんによる手作り作品です。スナップやマジックテープで布を縫い付けたり、外したりハメたりすることが出来るなど、様々な工夫がされています。

この手作りの布絵本は、視覚障害のある子どものために、さわる絵本として、約40年前から作られ始めました。そして現在は、見えない子どもたちだけでなく、手先が不自由な子どもや知的障害の子どもたち、さらには、交通事故等による言語喪失、手指機能の回復など、大人のリハビリとしても活用されています。

《ちいさいおおきい》



《むし》



※布絵本（ふきのとう文庫HPより）

《ドレミのうた》



《かくれんぼだあれ》



ひと針ひと針、丁寧に縫われた布絵本。長い時間をかけて大切に作られた布絵本からは、触れたりめくったりして絵本を楽しむ子どもたちの様子が自然と目に浮かびます。

（企画啓発課 宮田）

Information お知らせ



第20回じんけんふれあいフェスタ

楽しいイベントいっぱい!

「じんけん」についていっしょに考えませんか。

- 日時：2016年12月4日(日) 9:30~15:30
- 場所：高知市中央公園(高知市帯屋町1-11)
- ステージプログラム ※手話通訳あり
 - ・9:30~ オープニングセレモニー「光の村黒潮太鼓」
 - ・10:00~ 人権作文コンテスト表彰式
 - ・10:30~ 盲導犬デモンストレーション
 - ・11:00~ それいけ!アンパンマン ショー
 - ・11:30~ 人KEN まもる君・あゆみちゃんと子どもたちのステージ(高知リトルプレイヤーズシアター)
- ★12:45~ 人権啓発マスコットキャラクター愛称発表式
 - ・13:00~ GENKI 青年会土佐弁ミュージカル
 - ・13:30~ それいけ!アンパンマン ショー
 - ・14:10~ 高知オレンジリボンキャンペーン2016 たすきりレーゴールイベント
~ふせごう、なくそう~子ども虐待~
 - ・14:45~ 「トイレの神様」が大ヒット
植村花菜コンサート



なまえ
(愛称)
がきまるよ

《その他》

啓発・体験コーナー、盲導犬ふれあい広場、子ども広場(クリスマスカードづくり、絵本づくりなど)、バルーンアートプレゼント、ヒューマンビートボックス、県内のご当地グルメが大集合!
アンパンマンとの撮影・握手会、スタンプクイズラリー(やさしい手ぶくろプレゼント)など、子どもから高齢者まで楽しめる催しが盛りだくさんです。ぜひ、会場へお越しください。

※詳しい内容は、当センターのホームページに掲載しています。

問い合わせ先

〒780-0870 高知市本町4丁目1番37号

公益財団法人 高知県人権啓発センター TEL 088-821-4681 FAX 088-821-4440

E-mail : center@kochi-jinken.or.jp HP : http://www.kochi-jinken.or.jp